

記録番号:989 990

登山名称: 花の名山、平家平と裏山ハイキング

登山期日: 2019年5月18日(土)

登頂ピーク: 989 倉ノ又山 1243m 990 姥ヶ岳 1453.6m

メンバー: 涼子 達男

天 候: 曇り

2019年5月18日(土)

福井の山は深い。また近年離村が進んで廃村も多く、昔の自然に戻りつつある。岐阜県との県境には19 冠山 1256.6m、233 能郷白山 1617.3m、754 平家岳 1441.5m などがある。一方福井県内では荒島岳 1523.5m、銀杏峯 1440.7m、部子山 1464.3m などが近くにある。姥ヶ岳 1453.6m も県内で能郷白山の北に、国道 157 号の温見峠を挟んで横たわっている。

鷲ヶ岳から見る積雪期の姥ヶ岳 1453.6m はその長い頂上稜線を白鯨が横たわるように西の空に浮かんでいる。山名の由来は平家の落人伝説をそれらしく思わせる平家平にある洞穴に由来している。そこには山姥が住んでいたとか。

「小沢の姥が岳の頂上近くに、姥が岩という美しいほら穴がある。入口は小さいが中は広い。このほら穴に山ん婆が住んでいて、はたを織っていた」

平家平には今も段々畑らしきところや家屋跡の石垣などが残されているが、人が住んでいたのだろうか。福井県には廃村が多数ある。笹生川の西谷村や九頭竜湖の奥の伊勢村などが近くにある。雲川が笹生川と合流する開けた場所には現在、キャンプなどで楽しめる**摩耶姫湖青少年旅行村**が整備されているが、人々の暮らしの跡が今も残っている。

7:40 ごろ郡上市の HaksanView 出発。フォレスターに給油し、コンビニでおにぎりなど買って白鳥を離れた。国道 156 号の油坂トンネルを抜けて福井県に入り、九頭竜ダムの湖水が左手に見えだして次のトンネルを抜けると箱ヶ瀬橋が左手に見える。ここから県道 230 号が始まる。ダムの湖岸に沿って付けられた舗装道路ではあるが狭くカーブが極端に多い道だ。今日はこの道から目的の平家平を目指すことにした。春先に桜見物に真名川ダムの摩耶姫湖を訪れた折に涼子がいつか軽トラで通ってみたいと興味を示していた道だ。国道 156 号から国道 157 号を経て北回りで平家平に向かうルートに比べるとかなりのショートカットとはなるのだが、予想通り時間的には国道のほうが早いくらいだった。

米俵^{とめどうろ}という湖底に沈んで地名のみ残っているところや伊勢川に入って廃村の伊勢を抜けて伊勢峠を越え、笹生川を下って旧西谷村を通る道だ。小石が転がっている場所が多いが、全体によく整備はされていて、通行止めを危惧していたが問題なかった。



伊勢峠を越すと笹生川を下り笹生川貯水池を経て国道 157 号の雲川に出た。ここから温見峠方面に向かうのだが、全面通行止めの柵がある。だが、車は通れるように脇が開いていたので一瞬逡巡したが、行けるところまで行こうと無視して入った。平家平への分岐までさらに 2 か所ほど通行止めがあったが特に道に問題もなく巢原川に入ることができた。

巢原川の右岸につけられたアスファルト舗装の狭い林道を遡って道が左岸に移る橋を渡って尾根筋に登り始めるとコンクリート舗装に変わる。すぐに道端に石碑が現れる。何かと思って車を止めてみると対岸にかかる一筋の滝の説明だった。滝は「谷倉の滝」という。落差 60m。千古の昔から村人たちに親しまれていたようだ。小さな谷から流れ落ちているのに水量がそれなりにあるので見栄えが良い。

ツラオレのコンクリート道をゆっくりと登ると平家平のゲートが現れて左手の駐車場に入った。すでに 10 台を超す車が駐車していた。予想通り人気のある山だ。

10:27 身支度を整えて出発

ゲートを抜けてコンクリート道を少し登ると登山道が始まった。杉林を抜けるとまた林道に出る。そこはもう舗装はされていなかった。杉林の林床には小さな花が咲いている。どうやら山野草の一番いい時期にやってきたようだ。

林道を少し登ると再び登山道に入った。だんだん花が増えてくる。白いミヤマカタバミを見つけた。ヤグルマソウもある。登るにつれてサンカヨウの白い可憐な花が大きな葉の上に載っている。エンレイソウも出てきた。道はよく踏まれている。やがてサンカヨウの大きな群落に入った。見事に咲いている。これを見るだけでもここにやってきた価値がある。



サンカヨウ畑



サンカヨウ畑を過ぎると道は急斜面をジグザグに登る。道端には切れ目なく草花が見られる。少し雲行きが怪しくなってきたが、北陸は曇り時々晴れの予報を信じて先に進む。冷たい風が林を抜けていく。太平洋側は午後に雷の予報もあったので少し気になる。

倉の又山の尾根筋に出るとそこはブナの純林だった。落ちた枝などがきれいに整理されていて手入れが行き届いている。灌木は全くなく、林床はい一面にオウレンが覆っている。花は終わったのか、ほとんど見ることができない。しかし、ブナ林の様子が素晴らしくきれいだ。休憩ベンチもある。二人のカップル登山者が風の中でヤッケを取り出して着ていた。が、我々は汗ばむくらいだったので何もしない。風はブナ林では強いが灌木の中に入るときほどでもなかった。

ブナ林を過ぎると小さな沢を少し下って巻くようにして倉の又山の最高点に至る。イワウチワが出てきた。イワカガミかな、などと疑問符をつけながらよく観察する。やっぱりイワウチワだということで二人の意見が一致した。地形図の道は稜線にあり小谷には入っていない。このピークは我が山岳巡礼989番目のピークとした。三角点は山頂の複数ピークの西の端にあるが、そこは1215.5mでこちらは1243mだ。ここからいったん1190mのコルに下る。そこに小さい湿地があり水芭蕉がちらりほらりと思いのほか小さな花をつけていた。湿地には水がなく泥が残っているだけだった。あたりはコブシの灌木が多数あり、花は散りかけているが満開の白い花が二人を包んでくれた。

11:44—11:52 水芭蕉のコルを抜けてすぐに休憩

コンビニのお握りを一つずつ食べる。ここから頂上までは緩やかな登りが続いた。灌木が続く中大

きなブナや樺の木が目立つ。やがて地を這うようなブナが出て来るがこれは多雪地帯の特徴だ。

イワウチワを見る涼子	コブシ	水芭蕉のコル 1190m	弱弱しい水芭蕉
横たわるブナ	マンサク	カタクリ	

P1447、これは肩のピークだが、ここから三角点の頂上までは起伏のない広い稜線が続いている。笹原の根元にカタクリの花がパラパラと咲いている。皆恥ずかしそうに下を向いているのが愛らしい。そこを過ぎると頂上だった

12:55—13:10 990 姥ヶ岳 1453.6m 頂上

今日の登山は我々が最後の組らしく、頂上までに 9 組に出会った。頂上近くで最後に出会った組は 5 人の婆組だった。

--	--	--

山頂は灌木が切り払われて笹に包まれていた。三角点に小さな棒が寄りかかって置いてあった。そこに山名と標高が記されていた。北方は荒島岳 1523.5m と笹生川貯水池が見通せるが南側の県境稜線は見えない。踏み跡を少し北に行くと能郷白山 1617.3m を見る事ができた。ここでおにぎり一つずつ食べる。

下山は苦しみの始まりだった。二日前から左の膝に加えてここ二三年痛くなかった右ひざが痛みだしていた。登りは無事だったが、下りで踏ん張ると痛みが走る。左はさほどでもないがやっぱり痛い。今

までの痛みと違って骨と骨がこすれて痛いのではないかと思うような痛みだ。力を入れると痛いのでやっぱり腱鞘炎なのか。とにかくゆっくりでないと歩けない。涼子も登りの 2 ピッチ目で左足の付け根が痛みだしたという。しかし、涼子は速く速くとせかせる。少し休んで写真を撮っていても速くという。コルあたりで休もうと思っていたが、結局登り返してブナ林のベンチまで戻って一休みとした。



平家平の栃

12:55—13:10 ブナ林休憩

ここでロールケーキと紅茶のティタイム。涼子はサングラスを外して「あら明るいわ」と言い出した。サングラスのことは忘れて夕方になって暗い中を下って行くのがいやだったからせかしたのだという。急に機嫌が直って「じゃあ、ゆっくり降りましょう」とは呆れたものだ。

15:05 平家平の栃木

登山道を離れて林道を東に行き、栃木広場に出た。大野市指定の天然記念物。樹齢 400 年以上、幹周り 7.2m、枝張り 31.4m、樹高 26m。付近の山林 196ha は自然保護を目的として平成 8 年に大野市が買い取っている。ここは広場があり、栃は少し登ったところに南側の急斜面を背にすっと立っていてまだまだ若々しい。あたりには二輪草の群落もあった。

下ろうとすると婆組 5 人がやってきた。栃ノ木に来るのに少し下り過ぎたとか。「二輪草はありますか」と聞かれたところはそれを見るのも目的の一つか。

15:41 駐車場帰着。

もう限界かと思う膝の痛みを耐えて、しかし心は朗らかに楽しく下山してきました。靴を脱ぎ、膝のサポーターを外していると 5 人組の婆たちもおりてきた。車は我が家のものと、その一団のものだけになっていた。出発準備をしていると婆組は素早く出発していった。

帰路は 156 号を使った。

平家平とその裏山である倉の又山、姥ヶ岳はなかなか良い山だった。整備されたブナ林と数多くの山野草が印象深い。花の名山の一つだ。